学校番号	３１６

令和５年度　国語科

教科	国語科	科目	古典Ｂ	単位数	３単位	年次	３年次
使用教科書	古典Ｂ（教育出版） （第３年次では古文・漢文ともに第Ⅱ部を中心に扱う）						
副教材等	・改訂版　これでわかる明解古典文法（いいずな書店） ・改訂版　これでわかる明解古典文法　定着ノート（いいずな書店） ・改訂版　これでわかる明解古典文法　必修ノート（いいずな書店） ・完全頻度順　入試対策ベストセレクション　古文単語 325（尚文出版） ・新国語総合ガイド五訂版（京都書房）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・１、２年次の文法事項の知識をきちんと習得した上で古典作品を味わいましょう。
・予習を行い授業後は必ず復習をし、基本知識をしっかりと身につけましょう。
・古典単語力や文法知識が定着しているかどうか、提出物や小テスト等で確認します。
・提出物の期限は必ず守りましょう。定期考査に向けても常に計画を立てて臨みましょう。

２　学習の到達目標

・古典の作品世界に触れ、伝統的な言語文化への興味・関心をもつことができる。
・本文の内容を叙述に即して的確に読み取ることができる。
・古典文学を読む楽しさを味わい、ものの見方・感じ方・考え方を豊かにすることができる。

３　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:話す・聞く能力	c:書く能力	d:読む能力	e:知識・理解
観点の趣旨	古典を読む楽しさを味わい、古典に親しむとともに、伝統的な言語文化への興味・関心を広げようとしている。			文章の内容を叙述に即して的確に読み取っている。	伝統的な言語文化について理解している。
評価方法	行動の観察及び記述の点検 （ノート、プリント等）			行動の観察 記述の確認及び分析 定期考査	行動の観察 記述の確認及び分析 定期考査 小テスト

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点					単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d	e		
1学期	随筆・物語を読む	教材: ・『枕草子』 「宮に初めて参りたる頃」 「大納言殿参り給ひて」 ・『源氏物語』 「葵の上に取り憑く物の怪」 文法:敬語の用法	○			◎	○	a:『枕草子』の内容を踏まえて筆者の考え方や当時の宮廷生活を理解しようとしている。 物語の内容を理解するとともに、『源氏物語』をより深く知ろうとしている。 d:『枕草子』の筆者の美意識や機知を読み取ることができる。 『源氏物語』の登場人物の心情を、それぞれの場面に応じて読み取ることができる。 e:基本的な敬語法について理解している。	a:行動の観察及び記述の点検 d:行動の観察 e:記述の確認及び定期考査、小テスト
	史伝を読む	教材: ・『十八史略』 「荊軻」 文法:漢文の句法	○			◎	○	a:漢文の書かれた時代それぞれの場面に描かれた人間像を読み比べようとしている。 d:登場人物の言動や心理などを的確に読み取り、想像することができる。 e:漢文の基本的な句法・語法を理解している。	
2学期	歴史物語を読む	教材: ・『大鏡』 「兼道と兼家の確執」 「若き日の道長」 文法:助動詞・助詞の用法	○			◎	○	a:『大鏡』を読んで登場人物の人間像と心理の動きを読み取ろうとしている。 d:登場人物の時代背景や人間関係、心情を読み取ることができる。 e:形のうえで紛らわしい語を文法的に識別できている。基本的な敬語法について理解している。	a:行動の観察及び記述の点検 d:行動の観察 e:記述の確認及び定期考査、小テスト

	日記を読む	教材: ・『蜻蛉日記』 「嘆きつつ」 ・『紫式部日記』 「里居のもの思ひ」 文法:助動詞・助詞の用法	○			◎	○	a:『蜻蛉日記』や『紫式部日記』を読んで、作者の生活や心情を読み取るとともに、平安女流日記文学の特徴を理解しようとしている。 d:『蜻蛉日記』を読んで、作者の立場を理解し、その心情を読み取ろうとしている。 『紫式部日記』を読んで、人物に対する作者の感じ方や洞察力を理解しようとしている。 e:『蜻蛉日記』について当時の男女のやりとりについての知識を身につけ、作品の理解を深める。	a:行動の観察及び記述の点検 d:行動の観察 e:記述の確認及び定期考査、小テスト
3学期	評論を読む	教材: ・『無名抄』 「俊成自賛歌のこと」 ・『難波土産』 「虚実皮肉の論」 文法:助詞	○			◎	○	a:和歌や俳句に対する筆者の感じ方や考え方や芸論を理解しようとしている。 d: 筆者が主張する和歌や俳句の本質や主張する持論を的確に読み取ることができる。 e:和歌や俳論の文学史的事項を理解している。	a:行動の観察及び記述の点検 d:行動の観察 e:記述の確認及び定期考査、小テスト

※ 表中の観点について a:関心・意欲・態度 b:話す・聞く能力

c:書く能力 d:読む能力 e:知識・理解

※ 年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。